



一心眼鏡橋
ア・イ・ウ・エ・オの風景が快通で、集まり状態

「雲仙観光ホテル」に到着。昭和初期に建築されたというホテルの佇まいは言わずもがなの見事なもの。従業員のサービス、お料理のおいしさ、ショップの洗練されたセレクト。「お・も・て・な・し」は完璧なものである。さらに、風呂場の設えが見事なものだった。

昭和の初めの日本国民がいかに豊かであったかを彷彿とさせてくれる。都会の喧騒から離れ、久々にゆったりとした睡眠がとれた。「あ、ロープウェイがある」と発見すると、「乗ってみようよ」と全員の見解が一致。妙見岳に向かつて乗車、山頂からの「絶景」を堪能する。島原城の標識を見れば「登城」し、「鯉の泳ぐまち」の案内板を誰かが大きな声で読むと、なぜか「恋の多いまち」と聞き間違え、有無を言わさぬ迫力で、通り過ぎていたにもかかわらず180度Uターン。何歳になっても好奇心いっぱいの人メンバード。

清水では大きな鯉が穏やかな時間を過ごしていた。時間が止まったように感じるのは「鯉」と「恋」を間違えうほどのゆったりとした時間が流れているからかもしれない。恋する少年、少女へと時計の針は逆回転した。何か知らないが笑いの絶えない時間を共有した。長崎市内への道中、思いもかけない「コスモス」の群生に遭遇した。普賢岳を遠くに見る「しまばら芝桜公園」であった。コスモスの満開に、情緒不安定となるほどに感動した。

島原城の縄張り
ア・イ・ウ・エ・オの風景が快通で、集まり状態



長崎市街地に入ると、食欲に眼鏡橋や「出島和蘭商館跡」を見学。土産ものは、これと決めていた長崎名物の練り物「特製ちくわ」(「石橋蒲鉾店」)を購入。積極的に街を速歩した。夜は、長崎新地中華街「江山楼」にて「ちゃんぽんディナー」となった。一夜明けて、もうひとつの大きな目的地、憧れの『パサージュ琴海アイランドゴルフクラブ』に行った。H女史と美貌のジャズ歌手・Fさんとボクの3人(ほかの皆さんは観光へ)が想いの丈をゴルフにぶつけた。長崎2泊3日の旅はかくして終了と相成りました。いやいや濃い充実した旅を今回もしてかしました。満腹、満腹である。

ながとも、けいすけ
アートディレクター。1999年生まれ。日本デザインセンターを経て、1999年、黒田征太郎とデザインスタジオ「K2」を設立。エディトリアル、各種広告、イベント会場のアートディレクター、小説の挿絵、雑誌のチャイロ連載など幅広く活躍。



石橋へ特製ちくわ
めっちゃ美味しい



路面電車を乗りこえて
観光の70%はここから

ながとも、けいすけ
アートディレクター。1999年生まれ。日本デザインセンターを経て、1999年、黒田征太郎とデザインスタジオ「K2」を設立。エディトリアル、各種広告、イベント会場のアートディレクター、小説の挿絵、雑誌のチャイロ連載など幅広く活躍。

お問い合わせ：『石橋蒲鉾店』tel.095-824-4561